

2023年2月17日(金) 第2909回例会 形式:対面 天候:晴れ
合唱:我等の生業

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

先日、米山奨学生だったミンフィ君が我が家へ来ました。前橋にある自動車部品を作っている工場へ勤務していましたが、ベトナムホーチミン近くの日系の会社へ就職が決まり、退職をしたそうです。帰国は来週22日との

事で、最後の挨拶に来たようです。今度の会社はサイゴンステックというスマホのレンズを作っている、岡山県の井原というところに本社のあるシャープの子会社だそうです。彼は日本へ残りたかったようですが、皆さんご存じの通り、彼には美人の元CAのガールフレンドがいますので、彼女との話し合いの結果、断腸の思いで帰国の道を選んだようです。来日後6年間での日本での生活は楽しかったようです。同じ米山奨学生でも奨学金をもらうだけで例会に行っている学生もいたようですが、彼は来るたびにMOAや箱根、アカオガーデンなどあちこち観光に連れて行ってもらううれしかったと話しておりました。箱根の観光はあの伊豆山の土石流災害の前日、ものすごい雨の中を観光したのも忘れられないと言っていました。ただ驚いたのは家内が最後のお別れ会と称していろいろ料理を作ったのですが、金目もエスカルゴ風サザエもカキフライも最初で最後の経験になったようです。6年間での日本での生活は、やはり留学生にとってなかなか厳しいなかでの生活だったんでしょうね。最後に我が家へ来たのは、彼の日本生活6年間の集大成であったのでしょうか。ちょっと駅でのお別れは涙が出てしまいましたが、母国ベトナムでの楽しい生活を祈るばかりです。

もしかして結婚式には呼んでくれるのかな、なんて言いながらお別れさせて頂きました。

出席報告

会員	23名	出席率	75.00%
欠席	7名	前回の修正出席率	85.00%
(免除者)	3名	前々回の修正出席率	80.00%
ゲスト	0名	事前メイクアップ	0名
ビジター	1名		

ビジター

柴崎正三 君(第9G ガバナー補佐(小田原城北 RC))

幹事報告 なし

連絡事項

1.次週は通常例会です。18時より春陽亭にて安江会員の結婚を祝う会を催しますのでよろしくお願いいたします。

スマイル Box

柴崎正三君(第9グループガバナー補佐・小田原城北RC)

先日のIM・合同例会、大盛況で開催することができました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。本日は伊藤大先輩の卓話を拝聴させて頂きたく参上致しました。学ばせていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

青木義美君

本日はIMロスト中にもかかわらず柴崎AGにおいて頂きありがとうございます。

伊藤伸之君

柴崎ガバナー補佐ようこそ、先日のIM・合同例会、大成功におわれお疲れ様でした。

高杉尚男君・西山敦君

14日、広河原稲荷大明神の例祭を高知尾会員不在でしたが、奉賛会会長として、無時に務めを果たすことができました。

安江仁孝君

来週金曜夜、よろしくお願いいたします。今のところがんばっております。

卓話

伊藤 伸之 君



湯河原ロータリークラブに入会させて頂いてから38年経ちました。この間ロータリークラブも徐々に変化し、気が付いたら大きく変わっています。今回の卓話では、RIと湯河原クラブの歴史を顧みようと思います。

・ロータリーの誕生

20世紀初頭シカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくよ

うになっていました。ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、おたがいに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。それから志を同じくするクラブが各地に生まれ、今では200か国以上の国や地域に広がりこれら世界中のクラブの連合体を国際ロータリー(RI)と言います。

ロータリーの目的(綱領)

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること:
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事は全て価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること:
- 第3 ロータリアン一人一人が個人として、また事業及び社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること:
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

4つのテスト

1932年にハーバートJテイラーにより創作されました。

- 1. 真実かどうか
- 2. みんなに公平か
- 3. 好意と友情を深めるか
- 4. みんなのためになるかどうか

・湯河原クラブ

湯河原ロータリークラブにおいて親睦が第一であるといわれます。それはまず会員候補者の名前が出た時、職業分類に照らしなんの問題もない、その候補者の近隣の方々の評判も問題ない、他クラブのロータリアンもしくは元ロータリアンの場合は所属クラブから情報を得て、最後に100%出席出来るかなど検討し全員の賛同を経たうえで新会員として入会して頂きました。そうして入会された方々と例会や懇親会通じてその方と信頼関係が築かれ、今までお付き合いのなかった仕事上の関係が出てきます。湯河原クラブが出席率100%またはそれに近い数字を維持したのは会員の考え方や性格をより知るため、又会員同士いろいろな情報を得るためなのです。信頼関係が出来、今までなかった取引が出来たことにより、仕事で得られた利益の中から少しでも奉仕活動のためにスマイルを出していただければと思います。ガバナー公式訪問や新年会など、公式な行事の時芸妓を入れますが、これは2つの理由からです。1つは飲み物を誰が作るのかと言う時。会員は平等です。ですからお姉さんに作ってもらえば会員同士の話も弾みます。2つめは日本の伝統文化を絶えさせない、との考えです。このようなことから湯河原クラブでは創立当初から芸妓さんを入れていきます。

・委員会編成について

会員の方々大変お忙しい方ばかりですが、次年度会長、幹

事から委員会編成の発表がありましたら、快く引き受けて頂きたい。1年間我慢すれば良いのですから。

・例会における席順について

SAAの権限で名札をテーブルに置かれて会員はそれに従っていました。そうすることにより会員と親密になることができ、関係が深まってきます。このためSAAは開場30分くらい前にきて名札の配置をしていました。現在は以前と比べ会員の皆さま方大変お忙しい方ばかりで、早く来ることを無理強いできない部分がありますが、以前はそうでした。

・年会費

湯河原クラブは第9グループの中で高い会費のクラブとされています。基本的な部分は各クラブ共通だと思いますが、湯河原クラブでは米山や財団への寄付(地区からの要請金額)を上乗せしているため、その分高くなっています。何故このようにしたかは会費の中に含めると会社の交際費として計上できるからです。その結果、毎年地区要請の100%達成クラブとなります。

・スマイル

スマイルは奉仕活動のための原資です。湯河原クラブでは予算計上はこのところ60万円、年間1人当たり3万円弱です。内訳は本人及び連れ合いの誕生日、結婚記念日が2,000円、入会記念日1,000円、あとは年度初め、創立記念日など会員から公平に頂くのが約1/3、後の残り2/3が会員の方のスマイルで、予算以上の額を計上しています。スマイル担当は毎日地元の新聞、また会員からの情報を得て、気持ち良くスマイルをして頂きたいと思えます。但し無理をしないことです。スマイルとはニコリ笑ってお出し頂くものですから。

・ロータリーソング

例会などで国歌“君が代”やロータリーソングを歌います。ロータリークラブはアメリカが発祥の地ですが、何故“君が代”を歌うのか?

太平洋戦争でアメリカは敵国でした。敵国のためのクラブではないのかとの疑心暗鬼を無くす為に“君が代”をロータリーソングの前に歌ったのがいまでも続いているとのこと。また、ロータリーソング“それでこそロータリー”の歌詞に「どこであってもヤーと言おうよ」とあります。しかしある新会員が古参会員に会った時、“ヤー”と言ったら無視された、挨拶はロータリーソングのようにはいかない、と述べていました。この2点は“ロータリーの友”の“友愛の広場”に掲載されていました。

・ロータリーの友

読まざるベストセラーです。この本は横書きと縦書きがあります。横書きは国際関係、縦書きは日本の関係だと思います。最初に話した「ロータリーについて」と「4つのテスト」は横書きの最初のほうに記載されています。縦書きのなかでは「卓話の泉」や「友愛の広場」はロータリーのことや生活をしていくうえで勉強になることが掲載されています。時間があつたら読まれたら何かと参考になると思います。

・会報

会員の方に会報を出来るだけ早く届けるのに委員の方は苦勞しています。その為原稿はその都度会報担当者に提出するよう協力して頂きたいと思えます。

(文・編集:石川浩子(2月会報担当)/クラブ会報委員会)